



振り返りは成長のもと

児童支援専任

「前ばかり向くな」

最近手にした書籍の中で触れた表現です。先を見通して目標をもつことや前向きに生きる大切さが説かれることは多いですが、“後ろを振り返って自分が歩んできた道のりをしっかりと確かめることも大切だ”といった主旨でした。

振り返ることにに関して二つ思い出すことがあります。一つは教員になったばかりの体育研究会の先輩の話です。当時の研究テーマは“振り返り”と“めあて設定”でつくる体育科学習でした。このテーマのポイントは“振り返り”が先にきていることです。その先輩は「振り返りをきちんとできないと適切なめあては立てられない。」と常々おっしゃっていました。「前ばかり向いて、どうしてもめあてが先にきてしまうが、その前に振り返らなければ。」と、尊敬する方の言葉だったので、重く受け止めたことを覚えています。

もう一つは学生時代のアメリカンフットボール部での経験です。トレーニング室には選手ごとのベンチプレスなどの目標数値が貼られていました。そこには、目標とともに月ごとの最高数値も記録されていました。一か月ごとにどれくらい自分の記録が伸びたかが分かるのです。私の場合、やる気が高まるのは目標を確かめるときではなく、きまって記録の伸びを眺めるときでした。自分の成長を振り返ることでやる気が高まった経験の一つです。

学校では、振り返りの場面が少なくありません。以下は運動会の振り返りの一部です。

- みんなでうんどうかいができてたのしかった。
- ほんきをだしたので、2いだったけど、たのしかった。
- 演技では、全員で動きを合わせて最後まで集中したので、自分の心によい思い出として残った。
- 応援団としてビシッとできたので、他の場面でも他学年の手本になりたい。

子ども一人ひとりが自分のめあてをもって運動会に臨みました。学年や役割に応じて振り返りは様々です。しかし、自分の取組のよかった部分や、今後に生かせることなど、振り返りが今後の自分づくりにつながっていくことは同じです。閉会式で、頑張ったことを振り返る子どもの言葉に自然と拍手が沸き起こった場面が印象的でした。

授業の締めくくりに、単元の終わりに、行事ごとに、前期や学年の区切りに…それぞれの場面でのこうした振り返りが、次の学習や活動への動機づけになるのだと感じます。自分の成長を振り返るだけでなく、友達やクラスの成長を共有し、互いに認め合える学校づくりを進めていきます。

